

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	伊藤 孝子
学科	学科長、教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
キャリアデザイン（子）	子ども	1
社会科概論	子ども	1
社会科教育法	子ども	1
家庭科概論	子ども	2
家庭科教育法	子ども	2
保育内容総論	子ども	1
教職実践演習（幼・小）	子ども	2
幼児と健康	子ども	2
幼児と環境	子ども	1

②担任制度

担任（1 年生）	無	担任（2 年生）	無
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD 委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	副委員長	入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員長
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	副委員長
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	副委員長
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員長	紀要編集委員会	委員
学生調査委員会	委員	教職実践演習運営委員会	委員
教学調査委員会	委員	学長推薦選考委員会	副委員長
不正調査委員会	委員長	衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・保育や教育に関わる専門的な知識や技能が身に付くよう、授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れるなど学生の体験的な学びを推進し、理論と実践の往還に努める。また、体験的な学びを言語化する場を工夫する。 ・コミュニケーション力や協働力を高めるために、グループワークや発表などの機会を重視し、実践力の育成に努める。 ・学科長として、大学の教育方針、子ども学科の理念・目標等を踏まえ、円滑な運営が行えるよう、学科内の情報の共有や協議の充実を図る。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	①アクティブ・ラーニングの推進 担当する授業において、グループディスカッションやロールプレイ等の体験的な学びを取り入れるなど、授業改善に努める。 ②学生のコミュニケーション力・プレゼンテーション力の向上 小グループによる事例検討等、ディスカッションの機会を多く設定する。他者の考えを聞くことで自分の考えを整理したり、新しい発見が生まれたりする経験を大切にすること。キャリアデザインの授業では、学生に自分の将来について考えさせ、将来のイメージに近づくために何をすればよいのか、グループワークやプレゼンテーションなどを通して明らかにする。
授業以外（学生支援等）	①学生支援 保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導等を行う。 ②委員会活動等 子ども学科長という立場から、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催する。 ③研究活動・社会活動等 幼児教育や幼小連携・幼小接続に関する研修会・研究会等に参加し、専門分野の最新の状況を把握し、それらを学生に伝えるなど、学生支援に役立てる。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	①学生の理解度の向上 授業では、専門的な保育・教育内容を学生が理解しやすいように、プリントを工夫した。各時間の提出物（プリント等）には、コメントを書いて学生にフィードバックするように努めた。授業アンケートの結果からも、学生の理解度が向上していることを確認できた。 ②学生のコミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上 授業では、アクティブ・ラーニングを意識して授業を行った。特にグループでのディスカッションやロールプレイ等を多く取り入れ、学生が主体的に学べるように工夫した。 キャリアデザインの授業では、社会で求められるスキル（課題解決力・コミュニケーション力・主体性・自主性・社会性・協働力など）について、体験やグループワークなどを通して向上を図った。学生からも、コミュニケーション力が向上したとの声が聞かれた。
授業以外（学生支援等）	①学生支援 保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導、小論文指導等を学生支援担当課と連携して行い、公務員試験（幼児教育職）合格や私立園への就職内定に貢献した。 ②委員会活動等

	子ども学科長として、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催し、協議の充実を図るとともに、共通理解を図り、学生への伝達や指導の一貫性を確保するよう努めた。 ③研究活動・社会活動等 滋賀県内の公立幼稚園・認定こども園・保育所等の研究会で研修講師を務め、専門分野の最新の状況を知るよう努めた。 研修会や園内研究会での学びを踏まえ、学生に幼児教育や幼小連携・幼小接続等についての情報提供や助言を行った。
--	--

5. 目標（今後どうするか）

授業	授業では、学生の課題発見力・課題解決力、コミュニケーション力の向上を目指し、グループワークの充実に努めるとともに、個々の学生が課題を解決していける力を伸ばす。
授業以外 （学生支援等）	担任制、個別支援、学科内連携により学科全体で学生を支援していく。 委員会活動等に積極的に参加し、学内活動に寄与する。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	子ども学科長として、大学の教育方針を踏まえ、計画的に学科会議を開催し、協議の充実を図るとともに、共通理解を図り、学生への伝達や指導の一貫性を確保するよう努めた
教育	保育・教育職を志望する学生の就職活動において、希望する学生の面接指導や実技指導、論文指導等を積極的に行った。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上